



日本クリスチャン・アシラム連盟

日本アシラム

アシラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創設されたキリストの新しい祈禱運動である。

開心 ・ 静聴 ・ 充滿 ・ 献身 ・ 奉仕

〒 181-0011 東京都三鷹市井口 3-15-6 池の上キリスト教会内 日本クリスチャン・アシラム連盟 振替口座 東京 00100-1-4558

アシラムの思い出

「アシラムの思い出」という題をご覧になって驚く方もいらっしゃるのではないのでしょうか。正しくは「九州アシラム」の思い出です。二〇〇八年四月、当教会に就任を許され、十二年目になりました。こちらに赴任してすぐに神学生時代の恩師鍋倉勲先生から、九州アシラムへのお誘いをいただき、参加させていただいたのがアシラムとの出会いでした。

鍋倉先生はこの時、九州アシラムの委員長をされていて、恩師のお誘いだから断れないなあと思いつながら参加しました。ところが徹夜祈禱の折、参加者の祈禱ノートを見て驚いたのです。前年のアシラムに門司港キリスト教会から参加された姉妹たちがこぞって「どうか、私たちの教会に牧師をお遣わし下さい」と祈り、連鎖祈禱ノートに記帳されていたのです。それを読んで、私の就任は自分の周辺の方々の尽力と主のお導きであったと感謝していたのですが、こうして私の全く知らないところでも熱心に祈られ、その祈りに対して主が道を開いてくださったのだと、感謝の気持ちを新たにすると同時に、「アシラムの祈りはきかれる！」との思いを深く心に刻み付けた次第です。学びを続けるうちに、山崎製パンの社長もこのアシラムの禱友たちの祈りから会社再建の



門司港キリスト教会牧師

鮫島則雄

道が開かれ、その感謝の思いを込めて教会建設のために大きな捧げものされたことを知るようになりました。

他にも温情が仇となつて逆恨みされ、従業員から刺殺された被害者のお孫さんが、傷心の心でアシラムに参加された中で献身の決意へと導かれ、今は神学校を卒業されて牧会の第一線でご活躍されているなど…。主のお働きは派手なパフォーマンスによって現れることもありますが、ほとんどは「深く静かなる聖霊の御業」によって、着実に前進していることを教えられているこの頃です。私は来年三月末をもって、当教会を離職し、最後の奉仕教会を祈り求めているところです。長男が来年三月に学校を卒業して社会人になりますので、送金していた生活費が不要になる分、牧師給をフルサポート出来ない教会で現在牧師のいない教会からの招聘があれば祈ってお手伝いできればと祈り願っているところです。

九月の九州アシラムの祈禱の勇者たちにも祈っていただき、御心なら続けて九州アシラムに参加させていただきます。ただければ感謝ですね。事務局長の任は解かれましたが、会場では出来る限りお手伝いさせていただきます。皆さんと会場でお会いできるのを楽しみにしています。

霊 想

贖い、愛、臨在

イザヤ書 43章1〜5節



日本キリスト教団 新宿西教会
牧師 深谷春男

3年前、66歳の誕生日の前夜、即ち、二〇一六年二月三日の夜に大きな恵みを経験致しました。

一、恐れるな！わたしはあなたを贖った。

(罪の贖い)

1節に「恐れるな、わたしはあなたを贖った」とあります。ここには、人間の罪を贖う神様のメッセーじがあります。ここでは神の愛が、「罪の赦し」という形でその愛の本質を表現しています。旧約学会の会長をされた関根正雄師は「人間の最も深い所で必要としているのは罪の許しだ。人間はギリシャ的な真・善・美を求める存在と言われるが、もっと深いところで求めているのは、罪の赦しという出来事だ」とよく本に書いています。絶対的な神の御前に立つ時、わたしどもは自分の罪を思わざるを得ないので、その最も魂の深い所で、自分の罪を贖ってくださるというお方なしに、喜びや感謝を持って生きることが私どもにはできません。

私にとつての66年の人生で一番大きな出来事は何だろうか？それは言うまでもない、19歳の時の洗礼の日！一九六九年十一月

月二一日。あの日、私は主イエスの十字架の血潮で贖われ、新しい日が始まった。練馬開進教会、市川忠彦牧師、深い罪意識、あの洗礼の時の背中に入ってきた冷たい水、瞬間的に感じた主の贖いの血潮、あふれて止まらなかつた涙、洗礼の後に駆け寄ってくれた兄弟姉妹。その日の夜のクリスマス会の深い喜び、自分のアパートに踊りながら帰りました。「恐れるな！わたしはあなたを贖った。」これ以上の福音はありません。

二、恐れるな！わたしはあなたを愛して

いる。(神の愛)

4節に「わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。」とあります。これは新改訳聖書の方が率直でわかりやすいと思いますので、新改訳聖書を引用しました。英語の訳では「love you」となっています。当時のユダヤ人はバビロン捕囚という出来事の中であり、バビロニア帝国の奴隷となっていたのです。自分自身の罪と破れに奴隷状態となり、自己嫌悪のただ中にいたのが当時のイスラエル

人でした。彼らは疲れ果てていました。どうしても愚かな自分に価値を見出すことができないのです。しかしそのようなイスラエルに、神は語られました。「わたしはあなたを愛している」。「わたしの目には、あなたは高価で尊い」。この無条件の愛、罪に苦しみ傷ついたわが子を、命を懸けていとおしみ愛する神の愛。この愛こそ、人に生きる勇気を与え、希望を与えるものなのです。

三、恐れるな！わたしはあなたと共に

いる。(神の臨在)

5節に「恐れるな、わたしはあなたと共にいる。」とあります。ここにはバビロニアから故国ユダヤに帰るユダヤ人の姿があります。それは川を通り、焼けつく砂漠を通り、文字通り、水の中、火の中を通過するような体験でした。その厳しい歩みの中で、神様が共にいてくださること、つまり、臨在の支えの中で約束の地にまでたどり着いたのでした。神の臨在が彼らの生涯を支えたのです。人間は弱く愚かです。父なる神のご慈顔と共にあること、神の臨在の平安なくして、喜びの輝く人生など考えることができないのです。兄弟姉妹！主イエスは、わたしどもの此岸から、彼岸に橋渡しをしてくださる唯一の方なのです。ハレルヤ

アシユラムとの出会い



ウエスレアン・

ホーリネス

戸畑高峰教会

牧師 塩屋 優子

私がアシユラムと出会ったのは、今から30年以上も前になります。当時、東京聖書学校に通っていた時に、舎監の横山義孝先生（現アシユラム連盟理事長）から、城北アシユラムの集会に誘われて、何人かの学生で出席しました。会場は、当時、下落合にあった池の上キリスト教会です。

開心の時が終わって、グループに分かれて自己紹介をしました。その時に、お隣に座った方が「山崎製パンの飯島です」とおっしゃられて、私は思わず「あのヤマザキパンですか」と聞き返した思い出があります。

時を経て、二〇一〇年に私の父が自分の経営している会社の社員に殺害されるという悲惨な事件が起こりました。「なぜ、このような目に合わなければならぬのか」という苦しみの中で、昨年に召された今村幸文先生から『九州

アシユラムに来ませんか』というお電話がありました。今村先生は、私の父と母にバプテスマを授けてくださった恩師であり、家族のいろいろな相談に寄り沿って下さり、祈って下さった恩師です。私と母と当時大学三年生だった息子、教会員の方々と参加しました。その時のアシユラムは、人数が少なくても私たちが家族のために開かれているように感じました。

大学四年になった息子が卒業後の進路について尋ねると、「献身したい」というのです。「いつ決めたの」と聞くと「アシユラムで」という返事が返ってきました。私はびっくりしました。その時の事を後で聞くと、祖父が悲惨な死を遂げたことや犯人を許せないという気持ちに對して、今村先生がヨハネ20・19から、「あなたがたに平和があるように」という御言葉を讀んでくださって優しく話してくださいました。その時に息子に平安が与えられて、献身しようという思いになったそうです。現在息子は、小樽ホーリネス教会の牧師をしています。

その年から毎年欠かさずにアシユラムに出席できていることは神様の恵みです。開心の時に自分の現在の思いを語り、各ファミリーに分かれて祈りの細胞の時、福音の時には、じっくり聖書のメッセージに浸ります。そして、連鎖祈

禱の時、この時にも私は、主の僕の姿を今村先生に見ました。それは、各自が連鎖祈禱の時間を記入するのですが、私は眠いから先に祈ろうかなと十一時位に自分の名前を記入しようとしたところ、先に午前二時ごろの一番眠い時間に、今村先生の名前が書かれてあるではありませんか。80歳を過ぎて体調も悪い先生がこの時間に起きて祈られるのか、と悔い改めました。アシユラムを通して生きておられるイエス様を見ることができました。そして、充滿の時には、開心の時の思いはどこへやら、神様の恵みに満たされ、「また来年お会いしましょう」と帰路に着きました。

現在教会でもアシユラムの恵みをお伝えしたいと、礼拝後に青年と時々アシユラムをするようになりました。創世記から一章ずつ讀んで分かち合いをし、祈り合います。アシユラムは個人の恵みだけでなく、教会の恵みとなっていくことがこれからの課題です。



第57回関東アシュラム

事務局 石井 寛

台風の影響で関東各地の交通機関は夕方まで大混乱に陥り、そんな中で第57回関東アシュラムは始まりました。しかし参加者の半数は予定通りの時間に着き、プログラムの変更は皆無でした。

今回はアシュラムセンター主幹牧師、榎本恵師が助言者として立たれ、二回の福音の時のメッセージを語ってくださいました。日本には二つのアシュラムの流れがありますが、一方のアシュラムセンター、そして連盟組織のアシュラム双方ともスタンレー・ジョーンズ師が日本で始められたものですが、今、互いに助言者を送り合い、共にみ言葉の静聴、祈りの運動を推し進めています。

榎本師はルカ十九・28から「主がお入用です」をテキストに、正しい者同士の争い、自分の正しさが中心の生き方、本当の絶対者である方を忘れる中で、イエスは主である、と告白することの大切さを教えてくださいました。

いつもアシュラムで感謝なことは「連鎖祈禱」です。夜十時から朝六時までは沈黙の時、連鎖祈禱の時です。私はいつも真夜中の二時、三時の時間を選びますが、毎回そこには三々四人の人々が祈り、黙想されています。ノートが置いてあり、頂いたみ言葉、祈りが書いてあります。す



に天に帰られた方々の信仰を垣間見ることができません。これがアシュラムの恵みかもしれません。

アシュラム発祥の地、インド・サタルへの旅

二〇二〇年四月一日〜八日(八日間)

副理事長 岡山 敦彦

このツアーはアシュラムセンターおよび日本クリスチャン・アシュラム連盟の共同企画で進められています。かつては互いにそれぞれがスタンレー・ジョーンズ師提唱のアシュラム運動を独自に進めてきましたが、ここ数年互いに交流を持ち始め、今回、榎本恵師、副理事長の大分恵みキリスト教会・岡山敦彦師との交わりの中でインド・サタルでアシュラムを一緒に行いましょう、ということとなりました。二〇〇〇年、国際アシュラムがインドで開催された折、行かれた方々も、もう一度行きたい、との声も聞かれます。サタルでのアシュラムの前後にはジョーンズ師ゆかりの教会、大学、孤児院と病院、そしてインド最古の国立公園などを予定しています。



アシュラム発祥の地インド・サタルへの旅 2020年4月1日(水)〜4月8日(木) 8日間

ることとなりました。

詳細はチラシをご覧ください。この機会に一度インドへ、そしてアシュラムセンターとの合同アシュラムに参加されてはみませんか。費用、内容、問い合わせ先などはチラシに記載されています。

お祈りご支援ください

連盟の働きは「アシュラム運動の推進と啓蒙」「アシュラムへの助言者派遣」「会報、書籍発行」などです。そのため理事会を組織し、連絡会合を行い、アシュラム運動を進めております。その経費はおもに各地支部からの分担金、そして有志献金にて支えられています。どうぞ連盟の働きを覚えてお祈りご支援くださいますようお願いいたします。

アシュラム予告

- 東京新生アシュラム
 - とき 10月12日13日
 - 会場 東京新生教会
 - 証者 柴田早苗姉
- 第51回城北アシュラム
 - とき 20年2月11日
 - 会場 新宿西教会
 - 助言者 深谷春男師
- 函館ミニアシュラム
 - とき 10月14日
 - 会場 函館栄光教会
 - 助言者 脇田真一師

編集後記

今から70年前、戦後の荒廃した日本の中でキリストの愛と和解の理念を実践し、アシュラムを始めたスタンレー・ジョーンズ博士。多くの牧師がその働きに参加し、各地で始められた。しかしその流れは大きく二つになり、それぞれがアシュラムを展開してきた。その二つが今や助言者を送り合い、そしてアシュラム発祥の地、インド・サタルへの旅を企画し、共に現地でアシュラムを開催しようというまでになった。主の恵みと愛に感謝しよう。

